

一茶ゆかりの里四季の俳句会 一般の部 (令和六年四月～六月分)

選者 高山俳壇 高野 悠子 先生

特選天 嬰兒の寢息に届く初夏の風 群馬県 滝澤 照香

すやすや眠っている櫻児と初夏の風が何とも相俟って清々しい一句となりました。

特選地 移ろへる季節新緑騒ぎ出す 群馬県 仙田 美名代

晩春や初夏の頃のみどりを新緑といいますが。上五に対して新緑騒ぎ出すとは言いが得て妙。

特選人 掌に舞い降りピカリ蛍かな 神奈川県 安齊 恒治

一読し、過去が彷彿として蘇りました。正に感動の一句ですね。

入選 賑やかに跳び出してゆく春祭り 中野市 久保 広二

入選 石地蔵頬に一片桜かな 長野市 千原 光弘

入選 初燕郵便局も軒を貸す 群馬県 安齊 和子

入選 草色の濃きも薄きも草餅よ 群馬県 竹渕 洋子

入選 飛行機雲突っ込んでゆく夏の月 群馬県 宮崎 美智子

入選 高原の風も同封避暑だより 三重県 西尾 泰一

入選 街角や香りの主は忍冬 新潟県 鳥山 和伸